

# フロントランナー

民俗学研究者  
土喰小組合長

Jeffrey Irish  
ジェフリー・アイリッシュさん(48歳)

## 共同体に幸せのヒントがある



土喰集落で十余年。婆ちゃんたちは外国人という意識もなくなった。「優しい人だよ」＝鹿児島県南九州市

宮沢賢治がアメリカ人だったら。ジェフの暮らしは、そんな想像をかき立てる。

均年齢88歳、11世帯が独り暮らし。『小組合長』は男衆が輪番で短の集落のまどを後。

「シツコさん、足はどうですか?」「アキノさん、新聞配達、毎日お疲れさまです。」

「正確に月給額を受け取る。共益費、罹災の寄付などびっくろめつキヨだ。」

「鍋敷袋があるはずだよ。2千円(たまたま)もいんじやないかい?」81歳の光子さんが声を上げた。ひとあたり意見を求めた婆。これからは収入は減り、出ているおカネは増えます。2千円で様子を見よう。

3年前に小組合長をやったと聞き比べ、お年寄りの体力が落ちる55万円かけていますから考え

宮沢賢治がアメリカ人だったら。ジェフの暮らしは、そんな想像をかき立てる。村はずれの豪雨見張り小屋に住み、共同作業に率先して加わり、伏す者を尻舞い、寄り合いの口輪にじつと耳を傾ける。エリートのを捨て、へき地に来て小さな畑を耕し、わずかな稼ぎで生計を立て、人々から「ゼフさん」と呼ばれる幸せ。剛二毛角ケス、風二毛角ケスはこんな暮つし方もいい。

最初の寄り合いが公民館で開かれた。90歳のサエさんはかまどで湯を沸かし、お茶の用意。タエさん(71)は山で摘んだツワブキやタケノコをどっさり煮込んだ。2人は小組合長を補佐する小頭、生き生き働く。

花袋を揺れる山道をお年寄りが手押しクルマにつかまっして、ゆっくりに歩いて来る。

「鍋敷袋があるはずだよ。2千円(たまたま)もいんじやないかい?」81歳の光子さんが声を上げた。ひとあたり意見を求めた婆。これからは収入は減り、出ているおカネは増えます。2千円で様子を見よう。

3年前に小組合長をやったと聞き比べ、お年寄りの体力が落ちる55万円かけていますから考え

米園ハムスターを大会場で民俗学を専攻、京大で土喰の文化を

b3面に続く